

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 28 年 8 月

○ 概要

(1) 平成 28 年 8 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,090 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）1.8%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,305 円（伸び率▲2.7%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,475 億円（伸び率 5.2%）、薬剤料が 4,604 億円（伸び率 0.7%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 699 億円（伸び率 6.9%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8-9）	処方せん 1 枚当たり 薬剤料	処方せん 1 枚当たり 薬剤種類数	1 種類当たり 投薬日数	1 種類 1 日当たり 薬剤料
実数	5,828 円	2.81 種類	24.3 日	85 円
伸び率（%）	▲4.1	+0.3	+1.3	▲5.6

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,814 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）13 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 836 億円（伸び幅▲53 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の 27 億円（総額 248 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~15）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,814 億円 （+13 億円）	21 循環器官用薬 （836 億円）	11 中枢神経系用薬 （648 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（537 億円）
0 歳以上 5 歳未満	29.7 億円 （▲1.4 億円）	44 アレルギー用薬 （12.9 億円）	61 抗生物質製剤 （7.4 億円）	22 呼吸器官用薬 （3.9 億円）
5 歳以上 15 歳未満	72.2 億円 （▲1.2 億円）	44 アレルギー用薬 （29.3 億円）	11 中枢神経系用薬 （15.5 億円）	61 抗生物質製剤 （9.0 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,316 億円 （▲2 億円）	11 中枢神経系用薬 （277 億円）	21 循環器官用薬 （249 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（196 億円）
65 歳以上 75 歳未満	976 億円 （▲3 億円）	21 循環器官用薬 （256 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（161 億円）	11 中枢神経系用薬 （114 億円）
75 歳以上	1,420 億円 （+20 億円）	21 循環器官用薬 （329 億円）	11 中枢神経系用薬 （241 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（175 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,305 円（伸び率▲2.7%）で、最も高かったのは京都府（11,107 円（伸び率▲3.8%））、最も低かったのは佐賀県（7,987 円（伸び率▲4.6%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは茨城県（伸び率▲0.2%）、最も低かったのは和歌山県（伸び率▲8.0%）であった。（→P.27~28）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】699 億円（伸び率：6.9%、伸び幅：45 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	66.2%	+7.5%
薬剤料ベース	15.2%	+0.9%
後発品調剤率	66.1%	+4.4%
（参考）数量ベース（旧指標）	44.3%	+4.6%

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+6.9%	+17.3% （0 歳以上 5 歳未満）	▲1.7% （60 歳以上 65 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	15.2%	16.3% （75 歳以上）	8.6% （10 歳以上 15 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 （→P.38~44）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	621 億円 （+38 億円）	21 循環器官用薬 （178 億円）	23 消化器官用薬 （108 億円）	11 中枢神経系用薬 （75 億円）
0 歳以上 5 歳未満	4.7 億円 （+0.7 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.7 億円）	61 抗生物質製剤 （1.1 億円）	44 アレルギー用薬 （1.0 億円）
5 歳以上 15 歳未満	8.5 億円 （+1.0 億円）	44 アレルギー用薬 （3.7 億円）	61 抗生物質製剤 （1.9 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.4 億円）
15 歳以上 65 歳未満	199 億円 （+7 億円）	21 循環器官用薬 （50 億円）	11 中枢神経系用薬 （32 億円）	23 消化器官用薬 （31 億円）
65 歳以上 75 歳未満	162 億円 （+6 億円）	21 循環器官用薬 （58 億円）	23 消化器官用薬 （27 億円）	33 血液・体液用薬 （18 億円）
75 歳以上	247 億円 （+23 億円）	21 循環器官用薬 （71 億円）	23 消化器官用薬 （50 億円）	11 中枢神経系用薬 （32 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,068 円	1,419 円（岩手県）	875 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+2.2%	+6.3%（秋田県）	▲1.4%（長野県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	66.2%	77.8%（沖縄県）	56.4%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	15.2%	19.6%（鹿児島県）	12.2%（徳島県）
後発医薬品調剤率	66.1%	77.0%（沖縄県）	59.4%（徳島県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	44.3%	55.1%（沖縄県）	38.1%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成28年8月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。